

新横浜・大豆戸・菊名・大倉山・新羽など港北区南部の「地域インターネット新聞」ダイジェスト版です

shin-yoko.net

ネットで注目の話題

＜港北区＞街の発展と新たな日常、取り戻す歩みは止まらず



新型コロナウイルスの影響で、港北区内でも盛り上がるはずだった「東京2020オリンピック」が延期され、スポーツや大型イベントに加え、地域の夏祭りも軒並み開催断念に追い込まれています。一方で、新たな日常を取り戻す動きと街の発展は止まることはありません。

昨年11月末、「相鉄・JR直通線」の羽沢横浜国大駅が開業。同駅から新横浜を経由して都心を結ぶ「相鉄・東急直通線(新横浜線)」(2022年10月～2023年3月開業予定)の

工事も区内の地下深くで進みます。

今年2月27日には、菊名駅の近くに首都高「横浜北線」の馬場出入口が難工事の末に開業。続く3月22日には北線とつながる「横浜北西線」が全通し、港北区南部から東名高速、都心方面へ交通アクセスが飛躍的に向上し、周辺的一般道では混雑緩和も期待されます。

スポーツと大型イベントの街・新横浜で、新たに誕生するのがプロアイスホッケーチームの「横浜GRITS(グリッツ)」。秋以降、KOSE新横浜スケートセンターを本拠地にアジアリーグがやってきます。

6月には、横浜アリーナで「サザンオールスターズ」による無観客の大型ライブが開かれ、リアルタイム配信映像は日本中の注目を集めました。日産スタジアムでは、7月12日からJリーグの試合が再開。徐々に観客を入れながら新たな形で横浜F・マリノスの熱戦が再び始まります。

多くの人が暮らして行き交う港北区の街は、変化を受け入れながらも、歩みを続けています。

地域のニュース

● 港北区連合町内会が「川島新会長」体制に

横浜市港北区内の13エリアごとに組織されている「連合町内会」の代表者が集う港北区連合町内会の「顔合わせ会」が、6月22日に港北区役所で行われ、樽町の小泉亨会長、師岡の金子清行会長、城郷の牧義一会長、新吉田の末永佑己会長の4人の新会長も



港北区役所で「初顔合わせ」を行った

参加。区連合町内会会長の選出も行われ、篠原の川島武俊会長が新会長に就任。副会長に新吉田あすなろの関治美会長、会計に日吉の小島清会長、監事に高田の宮田寿雄会長がそれぞれ選ばれ、「港北区の顔」となる新4役が出そろいました。

● 菊名駅の周辺で飲食店が相次ぎオープン

今年3月以降、菊名駅の周辺で飲食店が相次ぎオープンしています。東急の駅そば「しぶそば」や西口の「ジョナサン」が再出店したほか、中華チェーン「大阪王将」が東口に新規出店。駅構内では「LAWSON+toks(ローソンプラストックス)」も開店しました。

「住みたい街」新横浜が上昇中

2020年版の「住みたい街(駅)ランキング(関東編)」(リクルート)で新横浜が3年連続の上昇で72位にまで上げ、港北区内の駅では日吉(87位)と綱島(129位)を抜いてトップとなりました。



「住みたい自治体ランキング」でも、港北区が前年と同じ22位を維持し、県内で5番目、横浜市内では3番目の位置に付けています。

発行者からお知らせ

「新横浜新聞～しんよこ新聞」は、2016年7月の創刊以来、4周年を迎えることができました。インターネット上で港北区南部エリアの情報を日々発信中です。北部エリアの「横浜日吉新聞」(2015年7月創刊)とともに、スマートフォンやパソコン、タブレット端末などを通じ、ぜひ日々記事をご覧ください。

【発行元】一般社団法人 地域インターネット新聞社  
横浜市西区北幸1-11-1 水信ビル7階

【裏面もご覧ください】

## 創業25周年迎える老舗IT企業「宮崎通信」、新羽に新本社オープン

港北区の老舗IT企業が新本社ビルをオープンしました。地下鉄ブルーライン新羽駅から徒歩約4分、宮内新横浜線にも近い新羽町に本社を移転した「株式会社宮崎通信」は、1995年12月に日吉で設立されて以来、電気・電話・LAN工事やシステム開発、パソコンやIT関連機器の修理とメンテナンスなど、IT分野での強みを発揮した事業を展開。パソコンのトラブルに対応する「パソコン救急センター」も同ビル1階で新規業務をスタートしています。

### ● 創業者の濱田順二社長は宮崎県出身

インターネットが日本で商用化されて間もない頃からの「IT企業」として1995年に日吉(下田町)で創業された株式会社宮崎通信は、パソコンやスマートフォンのトラブル解決から、通信インフラの工事や保守、ソフトウェアの開発まで「ITまわり」を一括して担うことで業績を伸ばし、今年(2020年)5月、本社を日吉7丁目から新羽に移転。これまでよりさらに充実した本社機能や人員の体制強化で、さらなる会社の発展を目指すことになりました。



創業者の濱田順二社長は、「宮崎さん」と呼ばれ、地域の人々から親しまれてきた

創業者の濱田(はまだ)順二社長は、宮崎県の出身。1980年代の「パソコン通信」時代から「通信」の威力や可能性を感じていたという濱田社長にとって、この分野で起業することは「必然」だったと、創業した当時を振り返ります。

2005年には自治体からの要請もあり、故郷・宮崎県にも進出。宮崎市内もあわせた「2拠点体制」で事業を展開、昨年(2019年)末での決算では、過去最高の売上高を達成するなど、業績は好調に推移しています。

### ● 「樹木」のマークに成長への願い込めて

濱田社長が考案した「樹木」を描いた会社のマークには、社員や事業が、木々の葉、そして枝、さらには幹として「成長」していくという願いを込めているといい、人材も広く募集しているとのこと。



「宮崎通信」のシンボル・樹木マーク



新羽駅から徒歩4分、宮内新横浜線に近い「株式会社宮崎通信」本社  
(公式ホームページ: <https://www.mtnet.co.jp/>)

### ● パソコン救急センターでPCトラブルに対応

「パソコンに詳しい人」として知られることになった濱田社長は、2001年にパソコントラブルに定額料金で駆け付けるサービス「パソコン救急センター」を日吉本町でオープン。2012年に日吉7丁目に移転後、一時期は全国系チェーンに加入したものの、昨年(2019年)1月から、新たに自社での運営体制に移行。「地域密着型」のパソコン救急時における修理やサポート、メンテナンスといったさまざまな独自のサービスを展開してきました。



パソコン持ち込み時にはまずはお電話を

99センター君



同センターのリーダー・井上健司さんは、「パソコンのメーカー・種類を越えて、ワンストップで対応可能です」と、法人・個人からの需要にも広く対応できるというパソコン救急センターの「強み」とアピール。

井上さんは、「パソコンの動作が遅い、操作や設定方法が分からない、突然起動しなくなった、ネットにつながらない、ウイルスに感染したかもしれない、といったどんなお困り事にも対応します」と、同店では、老舗IT企業としての歴史から生まれる各種サービスの利用を呼び掛けています。

### ● 株式会社宮崎通信「パソコン救急センター」

新羽町1144-1(地下鉄ブルーライン新羽駅より徒歩約4分)  
☎ 045-540-8153 営業時間: 9時~18時(定休日: 土・日・祝)  
公式ホームページからも問合せ受付中: <https://www.mtnet.co.jp/>



しんよこ新聞では「ツイッター」(@shinyoko\_net)や「フェイスブック」(@shinyokonews)でも日々情報を発信中です

